

私は大きく4点について質問します。はじめに障がい者支援についてです。本年4月25日、23区初となる「みなと障害者支援アプリ」の視察に港区役所に伺いました。このアプリはプッシュ通知で区からのお知らせ（コロナ関連情報、各種手当の手続き、イベント情報等）をお届けするほか、区立の短期入所施設の予約機能が搭載されています。これによってこれまで電話などで施設ごとに予約しなければならなかった短期入所は、アプリ上で全ての施設の空き状況を24時間いつでも確認でき、一度に複数の施設の予約をすることが可能となりました。港区でも情報提供の媒体としては区の広報紙やホームページを活用していますが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、感染防止対策やワクチン接種等の様々な情報が日々更新される中で、障がい者に対して必要な情報を迅速かつ分かりやすく届けることが急務であると考え「みなと障害者支援アプリ」の運用を令和3年10月1日から開始、現在300名の方がID登録をしているとのことです。

このアプリは港区で導入している「子育て支援アプリ」を開発する民間企業が障害のある当事者の視点を活かし、ユニバーサルデザインのコンサルティングを行う株式会社ミライロと連携して開発しました。様々な理由で外出や移動が困難、自治体の窓口へ直接出向くことが難しい、もっといろいろなサービスを受けたいなど、障害のある当事者の方やその家族などの支援者が持つ悩みに向き合い、1人でも多くの方々に対して、自治体が発信している有益な情報をお届けしたい、スマートフォン等を活用することでより便利な日常を享受し、今まで以上に生活の質を向上させてほしい、そのような思いからアプリの開発を行ったと伺いました。

北区においても利用者の利便性向上を図るため、障がい者支援アプリの導入をすべきと考えますが区の見解をお聞かせください。

また、「みなと障害者支援アプリ」ではワンクリックで、デジタル障害者手帳「ミライロID」を表示できます。「ミライロID」は株式会社ミライロが開発、運営する、障害者手帳を所有している方を対象としたスマートフォン向けアプリで、ユーザーは障害者手帳の情報、福祉機器の仕様、求めるサポートの内容などを「ミライロID」に登録でき、公共機関や商業施設において、障害者手帳の原本提示ではなく、スマートフォンに表示される「ミライロID」を提示することで障がい者割引や必要なサポートをスムーズに受けられる仕組みです。障害者手帳の提示がアプリで代用できることを周知しておけば特別な設備等は必要ないため、利用者、事業者ともにコストはかかりません。事業者にとっては本人確認作業の簡素化、利用者にとっては実物の障害者手帳の紛失防止といったメリットがあると考えます。「ミライロID」は大阪府、千葉市など多くの自治体で利用が可能で東京都では東大和市のコミュニティバスに導入しています。自

治体以外にも鉄道会社、航空会社、携帯電話会社、映画館等全国 3000 以上の事業所が本人確認書類として活用しています。導入によって見込まれる効果としては、利用者が紙の手帳を持ち歩く必要がなくなることによる利便性の向上、利用者が人前で障害者手帳を見せる必要がなくなることによる心理的負担軽減、自治体ごとに様々な様式となっている障害者手帳のフォーマットを統一することで事業者の確認の負担軽減、アプリ内で障がい者割引を受けられる施設の一覧を確認することができるため、施設利用者数の増加等があげられます。そこで北区でも障がい者手帳を提示することで利用料金等が減免される区が管理する各施設において「ミライロ ID」を導入すべきと考えますが区の見解をお聞かせください。

また、東京都では精神障がいを持つ方の社会参加を応援する制度として IC カード (PASMO) を利用して都営交通の全運行区間を無料で乗車できます。我が会派から長年要望させて頂いていますが、北区としても障がいによる差別を解消し、精神障がい者の外出を支援するため、福祉タクシー券の支給を改めて要望しますが区の見解をお聞かせください。

ともかく、ICT 技術は日進月歩で進化しています。5 月 25 日には、障がいのある人の情報アクセスや意思疎通に関する施策を総合的に推進することを目的に「障害者情報アクセシビリティ・コミュニケーション施策推進法」が施行されました。同法では、国や自治体に対し情報伝達機器やサービスの開発に対する助成、多様な手段で緊急通報ができるような仕組みの整備などを求めています。施行されてから、まだ日が経っていないところですが、同法に関して区の見解をお聞かせください。

二点目はゼロカーボンシティに向けてです。

本年 4 月 20 日、神奈川県開成町の国内初の Z E B 認証を受けた庁舎を視察に伺いました。Z E B とはネット・ゼロ・エネルギー・ビルの略称で、快適な室内環境を実現しながら、建物で消費する年間の一次エネルギーの収支をゼロにすることを目指した建物のことです。開成町らしい“田舎モダンを象徴する庁舎”に向けて、自然環境を効率よく活用し、極めて高度に洗練された技術を備えた建築となっており、自然光や通風を単に採り入れるのではなく、そこに高度な省エネ技術等を連携させることで、町内外に誇れる“低炭素型庁舎”として、町のブランディング・イメージに寄与する庁舎となっています。

役場庁舎の建替えに際し、新庁舎建設の基本方針に「地球環境への負荷、ライフサイクルコストを縮減する ZEB 庁舎」を掲げ、開成町の豊富な資源である水を空調熱源として利用するなど、高効率な省エネルギー設備を備えることにより、標準的なビルに対して一次エネルギー消費量の 55.1%削減を実現するとともに、再生可能エネルギーである太陽光発電でエネルギーを創ることにより設

計段階で 79%、施工完了時に 81%の削減を実現し ZEB 認証を取得しました。竣工後の、令和 2 年度の運用実績は 85.5%削減（省エネ 72.2%、創エネ 13.3%）となっています。

100 年で回収できるものなら採用しようとのスタンスであり、空調も採光も、省エネ関連の最新技術はどれも 100 年先を見据えた上で導入されています。開成町の取組みは我慢の省エネではありません。省エネだからといってギリギリまで冷暖房を落としたり、照明のオンオフを細かく気にしてエネルギー消費を抑えることはありません。どこかで我慢させるのは本来の目的である住民サービスの充実に反するからがその理由であると伺いました。公共建築をつくる際「税金を使うからにはできる限りローコスト、必要最低限で」と考えがちですが、開成町の取組みは省エネと住民サービスの両立を図り、真に必要な要素に向かい合う新たなスタイルであると考えます。北区の新庁舎においても区民の交流や賑わいを生むスペースを確保しつつ、高度な省エネ技術を駆使した庁舎とすべきと考えますが区の見解をお聞かせください。

北区と同じく 2050 年までに区内の二酸化炭素排出量実質ゼロを目指している港区では現在、区役所など全 155 の区有施設で使用する電力を、再生可能エネルギー由来 100%の電力へ切り替えを進めており、22 年度は 111 施設、残りは 23 年度以降に完了予定となっていますが、北区としても区役所及び区有施設で使用する電力を再生可能エネルギーに積極的に切り替えていくべきと考えますが区の見解をお聞かせください。また学校改築の際には環境に配慮した高効率の省エネルギー設備や再生可能エネルギーの活用を図っていますが、これから新築、改築される学校、新庁舎、北トピア等でも開成町の取組みを参考に先進的な省エネ建築（ZEB 化）を進めていくべきと考えますが区の見解をお聞かせください。あわせて庁有車の電動化についてどのように考えていますでしょうか。その上で区役所の駐車場に電動車用の急速充電器を設置すべきと考えますが区の見解をお聞かせください。

まずは区が率先してゼロカーボンシティ実現に向けて取り組む姿勢を示すことで、事業者や家庭での CO2 削減を促していくことが肝要であると考えますが区の見解をお聞かせください。

三点目は視覚障がい者の安全確保についてです。

現在、視覚障がい者のために整備されている音響式信号機は、夜間から早朝まで音を制限しているものが多く、その間の安全対策として私は令和 2 年第 2 回定例会での個人質問において歩行時間延長信号機用小型送信機の普及啓発について要望させて頂きました。その際「機器に対する認知度は低いと認識しており、今後、他自治体の取組みも参考にしながら、普及啓発を図ってまいります」との答弁がありました。その後の区の見解と成果について教えてください。

警察庁では、「交通制約者等の移動支援システムの開発」に取り組み、ブルートゥースを搭載したスマートフォン等に信号情報を提供する新たな歩行者等支援情報通信システムを開発し、整備が可能となっています。このシステムは、信号機から手元のスマートフォン等に信号情報を提供するため、スピーカーを路上に設置する必要もなく、設置に当たっての近隣住民との調整も容易であるほか、従来の音響式信号機よりも安価に整備できるとのことです。このシステムは先ほど述べた通り、信号機からブルートゥースにより信号情報をスマートフォン等に提供するシステムであり、スマートフォン等では、交差点名称、方向別の歩行者用信号の色、残り時間を表示、音声出力するほか、バイブレーションにより信号の状態等を案内することが可能となっています。こうした機能に加え、青信号時間延長機能を有している信号機では、スマートフォン等の画面を長押しすること、または発話により青信号時間の延長を要求することが可能となっているほか、交差点名称、方向名称は、利用者自身で変更することが可能となっており、利用者の利便性を高めるものともなっています。それとともに、歩行中の操作による危険を防止するため、「歩きスマホ警告機能」を有しており、歩きスマホを検知すると警告が画面に表示され、サービスが一時停止する設定となっています。利用する際には、スマートフォン等で対応アプリを起動しておくだけで、システムを設置している信号交差点に接近するとサービスを始め、交差点から離れるとサービスが終了する仕組みとなっています。

この歩行者等支援情報通信システムは、音響式信号機が設置できないまたは夜間に運用を停止せざるを得ないという課題に対して高い効果を発揮するものであり、交通制約者の方等の社会生活や日常生活の利便性と安全性の向上のために極めて有効なシステムであると考えます。現在 23 区では新宿区にのみ対応信号機が設置されていますが北区にも設置するように東京都、警察に要望すべきと考えますが区の見解をお聞かせください。

最後に（仮称）芥川龍之介記念館についてです。

本年文京区では、区ゆかりの文豪・森鷗外が没後 100 年を迎えることから森鷗外をさらに顕彰するとともに、鷗外が後半生を過ごした区の魅力を内外に発信するため、1 年を通じて様々な森鷗外没後 100 年記念事業を行っています。幅広い世代に鷗外を知っていただきたい思いから、区内の都立高校の生徒の皆さんに依頼した「記念事業ロゴマーク・ポスター・フラッグ」のデザインを活用し、区内外への周知を図っています。また、森鷗外記念館の最寄りを通る文京区コミュニティバスの千駄木・駒込ルートに森鷗外のラッピングバスを運行しています。そして、森鷗外にゆかりのある文京区・島根県津和野町・福岡県北九州市の芸能が一同に会する芸能サミットを本年 1 月 29 日に開催しました。

芥川龍之介も 5 年後の令和 9 年に没後 100 年を迎えます。コロナ禍により開設

が延期になっておりますが今後のスケジュールについてどのように考えているのか教えてください。

私が令和2年第4回定例会で要望した収蔵庫の確保については本年取組んで頂きましたが、開館に向けて資料の収集は進んでいるのか、同じく要望した小中学校との連携はどのようになっているのか教えてください。

また、(仮称)芥川龍之介記念館を盛り上げていくために、Kバスの田端循環ルートにおいて芥川龍之介のラッピングバスを運行すべきと考えますが区の見解をお聞かせください。「芥川龍之介と言えば田端」と内外に発信していくためには、JR東日本とも連携し田端駅及び駅前周辺を含めた一体化したまちづくりを進めていく必要があると考えますが区の見解をお聞かせください。

田端文士村記念館では、本年3月8日から7月24日まで河童忌・桜桃忌スタンプラリーとして田端文士村記念館と芥川龍之介に憧れた太宰治の創作の地三鷹にある太宰展示室三鷹の此の小さい家そして、両作家の早熟な学生時代に拠点となった新宿の歴史博物館が手を携え、協働企画展示を開催しています。

私自身、議会質問等において他区の文学館との連携を要望しておりましたので、この取り組みは素晴らしいと感じておりますが、反響はいかがでしょうか。また、全国には芥川龍之介ゆかりの文学館が数多くありますので今後更なる連携の拡大をすべきと考えますが区の見解をお聞かせください。

昨年、田端文士村記念館ではオリジナル限定商品「芥川龍之介河童図マスク」を販売しました。マスクの内側に芥川の言葉が入っていて私自身も購入しましたが、このマスクの反響について教えてください。今後、渋沢関連グッズのように芥川のグッズも記念館に向けて広く開発していくべきと考えますが区の見解をお聞かせください。

群馬県の前橋文学館では、スマートフォンのカメラを萩原朔太郎像に向けると、詩に関連する画像や音声がでる「拡張現実(AR)」の技術を活用した取り組みを行っています。展示はスマホに専用のアプリを無料でダウンロードし、アプリを起動した状態でカメラを朔太郎像に向けると本人が朗読した音声に合わせて画面上に詩が映し出されます。仮称芥川龍之介記念館の敷地も狭いことからARを活用した展示を採り入れるべきと考えますが区の見解をお聞かせください。

以上答弁を求め質問を終わります。